

研究の目的

申請者はこれまでの研究において、東日本大震災被災地域である岩手県釜石市・福島県相馬市における復興活動、特に交流人口増加に向けた活動プロセスにおいて内部人材・外部人材の連携や活用の方法論に差が見られること、またその差が生じたことは偶発的なではなく、従前の地域ごとの特徴が明確に現れた可能性があることを指摘してきた。復興庁による財政的支援が一段落を迎える中で、これらの取り組みの成果と課題を一般化する社会的必然性があることから、2020年度の研究では、同じような地理的特性を持つ宮城県石巻市を新たなフィールドとして追加し、以下の3点を目的とした。

- ① 宮城県石巻市の復興過程での外部人材の流入状況と内部人材との連携における経緯と現状を明らかにする。
- ② 東日本大震災被災地域における交流人口増加に向けた活動における内部人材・外部人材の連携の形と、それを生み出す背景について一般化したモデルの構築を試みる。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の蔓延という新たな危機を迎えた3地域の交流人口増加活動の現状と各主体の対応について整理する。

取り組みの結果

[研究目的②]

被災地域での「交流人口・関係人口増加の活動」⇨観光まちづくり活動における人材の連携状況には、地域間で差が見られた。その差の背景には、行政も含めた内部人材と外部人材との「つながり方」の違いがあること、その「つながり方」は短期的に形成されたものではなく、大震災以前から見られていたことを改めて明らかにした。

・岩手県釜石市における人材活用の在り方
地域の危機への対応にあたって、「開放性」を持って外部人材を受け入れやすい土壌を構成しつつ、個別の取り組みに他者（特に内部人材）が深く関与しない形でまちづくりが進められていると言える。故に定住しない交流人口・関係人口の増加活動との親和性が高い部分もある。

・福島県相馬市における人材活用の在り方
大震災による生業の危機に際して、内部人材が主導権を持って周囲との結束力を高める動きを取った。その対象は同業だけではなく、学縁などを通じた異業種との連携にもつながり、さまざまな新しい取り組みが立ち上がっている。他方で、外部人材に内部人材とのインフォーマルな交流を通じた内部化（内部性を高めること）を求める傾向があり、釜石市のような外部人材の豊富さは見られない。

[研究目的③]

外国語学部選択必修科目「フィールドスタディⅣ（相馬）」をオンライン（Zoom）で展開し、その中で相馬市における新型コロナウイルス感染症の影響についてヒアリングを行った。その結果、以下が明らかになった。

1. 特に首都圏からの観光者の減少が大きい状況
2. 異業種の内部人材による連携で生まれたグループが、新たにオープンした施設「浜の駅松川浦」内飲食施設の運営に取り組んでおり、多くの来訪者を集めている。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で未了

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、遠隔地への移動と滞在が原則禁止され、現地でのインタビュー調査や資料収集を行うことができなかった。そのため、以下のように本研究の多くは未了となった。可能であれば次年度に延期して実施を行いたい。

[研究目的①]

石巻市に直接行くことができず、実施できなかった。

[研究目的②]

新たな対象者へのヒアリング調査を行うことができなかったため、これまで実施してきたヒアリング調査の中で整理が未了だった部分の分析にとどまった。

[研究目的③]

オンライン授業を新型コロナウイルス感染症の影響について一定の情報収集はできたが、相馬市の事例のみにとどまった。